

本報告書は、学校法人巨樹の会 小倉リハビリテーション学院の職業実践専門課程認定に関わる学校関係者評価委員会の評価結果を記したものである。

令和6年度 (2024年度)

令和7年7月1日

学校関係者評価 報告書

学院長 宮崎 澄雄

学校評価実施責任者

副学院長 磯邊 恵理子 (令和6年度)

学校法人巨樹の会
小倉リハビリテーション学院

<目次>

- 1 学校関係者評価の概要と実施状況
 - 1) 学校関係者評価の目的、方針
 - 2) 学校関係者評価委員
 - 3) 学校関係者評価委員会の開催
 - 4) 学校関係者評価の実施
- 2 学校関係者評価の内容
 - 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
 - 項目Ⅱ 学校運営
 - 項目Ⅲ 教育活動
 - 項目Ⅳ 学修成果
 - 項目Ⅴ 学生支援
 - 項目Ⅵ 教育環境
 - 項目Ⅶ 学生の受け入れ、募集
 - 項目Ⅷ 財務
 - 項目Ⅸ 法令等の遵守
 - 項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

1 学校関係者評価の概要と実施状況

1) 学校関係者評価の目的、方針

- ①関係業界・職能団体、高等学校、卒業生、学生保護者、地域住民などの学校関係者が、本校の自己評価の結果を評価することで、その妥当性を確認し、客観性・透明性を高めることを目的とする。
- ②学校関係者評価により、本校の学校運営・教育活動における課題を明確にし、その意見を参考に学校運営の改善を図る。
- ③学校関係者評価は、本校の自己評価を基に、「専修学校における学校評価ガイドライン」および本校の学校評価実施規程に則り実施する。

2) 学校関係者評価委員

委員氏名	所 属	選出区分
白川 英治	福岡県立 京都高等学校 学校長	高校等評価委員
伊藤 均美	北九州市立沼市民センター	地域住民
岡田 和敏	西南女学院大学	学術委員
鳥井 聡	門司掖済会病院	企業等委員
岩木 大佐	介護老人保健施設 桜丘	企業等委員
角川 政喜	健和会 大手町診療所	卒業生

(※ 敬称略、順不同)

3) 学校関係者評価委員会の開催

第1回委員会 日 時 令和7年3月14日(金) 13:00-15:00
場 所 小倉リハビリテーション学院

4) 学校関係者評価方法

令和6年度の自己評価結果の内容を確認し、課題や改善が望まれる項目及びその解決策について、下記のポイントに留意しながら検討を行った。

- ① 自己評価の結果およびその内容は適切か否か。
- ② 課題やその解決策は適切か否か。
- ③ 学校の運営改善に向けた取り組みは適切か否か。
- ④ その他、評価委員からの助言。

2 学校関係者評価の内容

学校関係者評価、自己評価とも、各項目の評価は下記に示す4段階の評定基準にて実施した。

【評定基準】

- S : 十分に達成している。 (達成度が高い)
A : 達成している。 (概ね達成しており、明らかな改善は要しない)
B : 達成がやや不十分である。 (若干の改善を要する)
C : 達成が不十分である。 (不適合がある、明らかに改善を要する)

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

今年度は開校20周年記念式典を開催し、卒業生を中心に今までの歴史を振り返り養成校として改めて目的を明確にすることが出来た。卒業生に講演会や記念誌寄稿文などに協力してもらうことで、現在の活躍状況を把握することが出来、人物育成像についても再認識できた。在校生たちへも本校の教育理念を周知することへ繋がった。

高等学校に対しては高校訪問の回数を増やし、オープンキャンパスへの参加者や受験者数維持につながったため教育理念や人材育成像に関しては周知できたと考える。

課題

社会情勢や学生の多様化に応じて人材育成をしていく。保護者への周知も図っていく。

改善の方策

卒業生施設訪問時など本校の教育理念を十分に説明しながら現場の状況を把握していく。保護者への周知も定期的に学校情報を伝達するなど強化し、教育理念の浸透を図ることで協力が得られる体制にしていく。

学校関係者評価委員会からの意見

特に問題なし。

小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適合

■コメント

本校の教育理念「共に学び 共に歩み 共に進む」

教育目標「心豊かに分かり合える、理学療法士・作業療法士であること」「信頼される、理学療法士・作業療法士であること」「くらしを支える、理学療法士・作業療法士であること」と定め取り組んでいる。

小項目Ⅰ-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界（高校、病院、実習設など）に周知されているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

教育理念・教育目標は玄関に掲げると共に学生便覧、ホームページ、パンフレット、シラバスなどに掲載し、高校訪問やガイダンスなどでも広く周知している。

小項目Ⅰ-3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適合

■コメント

医療職としての教育目的・人材育成像は生涯学習という専門職の特性を明示した内容である。また、年に2回教育課程編成委員会、年に1回学校関係者委員会を実施、各教員が学会や研修会などにも参加し様々な方面からの意見を伺っている。今年度は就職先への訪問を実施し卒業生の動向も確認出来た。

項目Ⅱ 学校運営

総括

毎年年度初めに教育目標を掲げ職員への周知を図っている。委員会、会議等組織図が整備運用されている。就業規則など法人で随時見直されている。

Web上（GROUPSESSIONやポータルサイト等）で教員スケジュールや施設利用状況、学生状況が管理・把握でき業務を進めやすくなっている。

課題

随時就業規則など見直されているため周知の必要性あり。

改善の方策

WEB活用しながら素早い伝達を図る。情報セキュリティは、全職員共通理解のもと、情報漏洩の防止に努める。

学校関係者評価委員会からの意見

引き続きセキュリティ対策を行いながら教育活動を推進してほしい。

小項目Ⅱ-1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

今年は職員の異動や新入職などが多く生じたため業務の役割分担にやや時間を要した。そのため各委員会の計画・実行が遅れることもあった。

小項目 II-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

各学科や委員会では定期的に会議を開催し議事録を作成して情報共有を図っている。学院決定事項は、運営会議（1/2w）で審議している。その後全体へ伝達している。全職員が参加する全体会議（1/月）も実施し情報共有や意思統一を図っている。

小項目 II-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

今年度から募集要項をホームページ上に掲載しWEB出願形式へと変更した。今後に向けて改善点もあるが問題なく活用できている。会議の資料などペーパーレス化を図っているが、まだ業務の効率化を図る余地はあり今後も検討していく。

項目III 教育活動

総括

学校法人として横断的に他の関連校との情報共有を図りながら教育活動を実践している。カリキュラム委員を中心に科目間の連携についても調整をしている。3月の学校法人研修会では全職員にてカリキュラムツリーの見直しを行った。

学生の多様性も認めるため、今後は学生指導力向上に向けた教員力向上が必要だと考える。

課題

今後の指定規則改定を見据えてカリキュラムの見直しが必要である。基礎学力強化の目的で学習アプリを活用し知識の定着に努めている。

改善の方策

今後、学生のアプリ使用感などのアンケートによる評価を取り入れながら、学習効果を高めていきたい。

学校関係者評価委員会からの意見

国際化にも対応できるように英語などを実践的に学ぶ機会を取り入れるとよい。リアリティを持たせた講義が学習意欲の動機づけとなる。

小項目 III-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

教育理念や3つのポリシー（アドミッション・カリキュラム・ディプロマ）、教育目標を提示しカリキュラム構成を行っている。またカリキュラムツリーに基づいたそれぞれの科目についてシラバスを作成し、シラバスの内容はもとより、基礎科目からの応用科目への繋がりを含めて学生へ説明しながら授業を実施している。

小項目 III-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

講義ではipadを活用している。今年の1年生からは繰り返し学習と知識の定着を確認できるアプリを導入し、取り組んでいる。また降雪などの自然災害時や感染時にもオンライン講義を実施し学事が滞らないように対応した。

キャリア教育に関し、1年次から将来像を考える講義を組み込んでいる。次年度も見直しを図りながらより実践的なキャリア教育へとブラッシュアップしていきたい。

今年度も関連病院職員の協力による実技試験を、10月に実施し臨床場面での視点を伝えることが出来た。

臨床実習においては基本的な態度に関する指導を受けることもあり、引き続き実習までに身につけられるよう準備していく必要がある。

小項目 III-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

学生による授業評価および教員間評価は継続して実施し、結果の集約や分析を行っている。しかし、データの集約と結果の数値（平均点）の集計にとどまり、形式的なもの

なっている可能性がある。複数回実施して前後評価するなどより充実した評価体制の構築を図りたい。

アプリ導入による効果判定を実施し、その結果から一定の効果を得ていることがわかった。ただし教員の働きかけ方や課題の出し方などに工夫が必要であることが示唆された。

小項目 III-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

国家試験に向けた取り組みは1年次・2年次とセミナーに組み込み実施している。例年学年末テストでその習熟度を確認しているが基礎知識の強化が課題である。効果的な学習方法について各教員が工夫していく必要がある。

小項目 III-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みは行われているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

教員の研修会や学会については、各職員の希望に基づき参加している。また、4校のカリキュラム委員会において効果的な教育を実施するための講習会を年2回開催しすべての教員が受講することを義務付けている。これにより、教育目標から授業設計等の基礎知識を得られるよう工夫されている。研究や自己研鑽に関するシステムはあるが教員の取り組み状況には個人差がある。

ICTシステムに関する研修会も実施し、職員全員が教育の中でAIなどを効率的に活用できるように

努めている。

項目IV 学修成果

総括

国家試験結果や就職率、進学率など概ね良好な成果であった。

今年も9月から本格的に国家試験支援をスタートし学年スローガンを掲げて学生・教職員が一丸となって臨んだ。作業療法学科では全員合格という好成績であった。

課題

今年度の退学者の大多数が1年次学生だった。

最終学年の国家試験対策時に改めて基礎知識の定着に時間を費やしている。

改善の方策

初年次教育を強化していく必要がある。次年度も早期に基礎知識の強化を図るなど対策に工夫が必要である。今後も初年次より職業理解による意欲低下の軽減を図りこまめな教員面談による学習不安や進学意欲の把握を行い退学防止に努める。

学校関係者評価委員会からの意見

国家試験対策については早期から計画的に行い、全教職員一丸となって取り組んでいることは評価できる。ボランティア活動では若い人に来てもらうことで高齢者も元気になるため引き続き活動を要請していくほうが良いと思われる。

小項目 IV-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適合

■コメント

就職率 100%

関連病院の協力もあり、早期から説明会や就職試験などが実施でき年内全員内定を目標に学生支援を図った。また卒業生就職先施設訪問も7月に実施し卒業生の情報収集に加えて求人情報の参考とした。

WEB上での求人票管理、就職試験情報の集約などサポート体制は整備している。

学生の就職活動状況は担任を中心に把握し、会議での報告やクラウドの活用などで、即時の把握が行われている。

次年度卒業生に向けて、今年度はより早期に活動するため3月から関連病院の説明会を開催予定である。

小項目 IV-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

第60回理学療法士作業療法士国家試験結果：PT 91.3% OT 100%

国家試験の合格率については、90%以上を維持し、全国平均を上廻るかほぼ同等の状況で推移している。姉妹校と情報共有しながら本校の弱点を確認し臨機応変に学習対策を図った。理学療法学科に関しては学力強化の必要な学生が多く、学科教員全員で学生レベルに合わせた対策を図ったが来校困難な学生もおり苦戦した。

小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

退学者12名(2.9%)理由は進路変更が主である。昨年と比較し減少しているが、初年次の退学者が多い結果だった。成績不振による退学者を減らすために、授業外のセミナーや個別指導などの取り組みを行い防いでいる。また、定期的な学生面談、スクールカウンセラーとの連携、早期より保護者への連絡や面談を実施して、就学後の学生状況の把握、就学支援、学習面や心理面の支援を行っている。

小項目 IV-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価：B ■学校関係者評価：適合

■コメント

就学中の社会的活動の支援として、市の青少年ボランティアステーションを利用しながら、市の活動や地域施設(障害者施設)・病院への催しを促している。夜間部学生がトレーナーとしての活動要請もあり奨励している。

項目V 学生支援

総括

専門学校として就職や資格取得に向けた支援体制を整えている。各学科とも学年ごとに担任・副担任・学年主任と連携を図り学生支援を行っている。就職活動や学習支援では全教員で協力し実施している。

課題

学生の多様化に伴い教員による支援の必要性も多くなってきている。

改善の方策

家族と連携して多方面からサポートし学生の自主性を育んでいく。

学校関係者評価委員会からの意見

退学者対策としては学生との対話を増やし早い対応を実施して欲しい。スクールカウンセラーも引き続き活用して欲しい。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適合

■コメント

1年次からキャリア教育の一環として様々な分野で働く現場のセラピストの話の聞いたり、セミナーを通して学生に考える機会を与える様なキャリア教育を実践している。就職委員会を中心に年3回の就職説明会(オンラインおよび対面形式)、接遇セミナー、履歴書の書き方・添削指導、面接練習などを全教員で対応した。関連病院の存在も含め支援体制が整っており、現在の就職率の高さに繋がっている。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

学生相談体制について、担任・副担任制、学年主任体制など学科全体で学生をサポートし、定期的な面談や必要に応じてカウンセリングの紹介など学生が相談しやすい環境づくりを実施している。週1回スクールカウンセラーを配置しており、教員には相談しにくいような内容の時に教員を通さなくても相談できる体制を整えている。必要に応じて保護者や医療機関と連携も図っている。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

学校生活上の気になる行動が認められる学生に対し、随時保護者へ電話連絡や面談も行っている。

また、入学前や実習前に保護者説明会を行ったり、定期的な年間行事のお知らせをポータルサイト上に送るなどして保護者との連携を図り信頼関係を構築している。

小項目 V-4

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

高校との連携では、定期的な高校を訪問し在校生や卒業生の情報提供を行っている。また、高校訪問や高校ガイダンスなどで情報の提供や職業理解や職業体験などの講義を行うことで高校・高等専修学校との連携を深めている。他にも高校の部活動や大会に出向

き、怪我をしないストレッチやテーピングなどの理学療法の指導も行っている。高校からの依頼による研修会も2回実施した。高校生のインターンシップの受け入れも行った。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

高等教育修学支援制度の認定や専門実践教育訓練給付金の指定講座の認定が継続されている。学校独自の特待生制度や夜間部対象の就学支援金制度なども設けている。

これらの制度はオープンキャンパスやガイダンスなどでも周知している。奨学金制度の情報は必要に応じて在校生へ提示し手続きを行っている。

学費納入に関する相談は個別対応している。

項目VI 教育環境

総括

施設、整備などは関係法令に適合し、整備している。今年は全教室のブラインドをカーテンに変更し劣化した机や椅子なども変更した。

課題

しかし空調設備の老朽化により夏の時期にエアコンが効かない・水漏れが生じるなど度々不具合が起こった。

改善の方策

エアコンの不具合時はその都度講義教室の調整を図り臨機応変に対応したため、次年度修繕予定としている。また全館塗装も計画しているなど校内設備や備品は毎年購入計画を立てて優先順位をつけながら整備している。

学校関係者評価委員会からの意見

設備は故障前に定期的な点検を実施し管理していったほうが良い。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価：B ■学校関係者評価：適合

■コメント

講堂の机やいすの買い替え、新しい教材の購入、ブラインドからカーテンへの変更など予定していた整備に加えて空調の故障などが頻回に生じたため修理を要した。最新機器に関しては授業のみならずオープンキャンパスでも活用している。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

実習における教育体制について、学生および実習施設の指導者向けに手引きを作成し、共通のマニュアルのもと実習を実施している。学生および指導者にむけた説明会をオンラインで開催しており、指導内容や評価基準の明確化を図れている。実習中は定期訪問することで、臨床教育者と十分に情報共有が図れている。

今年も新規実習施設に依頼を実施しより充実した教育体制へと繋げている。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

防災設備の点検整備は適切に行われており、防災マニュアルも整備されているが見直しが必要である。また7月に避難訓練を行い、防災機器の点検も適宜実施している。

項目VII 学生の受け入れ、募集

総括

ホームページやSNSを活用しながら情報提供を行っている。

また、関連病院と連携した職場体験会も実施している。今年度は夏のオープンキャンパスウィークや夕方開催の説明会を実施し高校生や社会人が参加しやすい環境を整えることで参加者数の増加に繋げている。

課題

18歳人口の変化を見据えながら期待され選ばれる学校創りを行う。

改善の方策

現在の高校生のニーズに合わせて広報活動を工夫していく。

また職員の節約意識の強化や優先順位を考えた物品購入を行っていく。

学校関係者評価委員会からの意見

夜間部募集停止となったため収支も確認して進めてほしい。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

教職員による高校訪問を定期的に行っており、訪問時に在校生の状況や卒業生の就職状況を報告し、その都度必要な情報を伝えている。今年は理学療法学科夜間コースの募集停止となり周知を図った。退学者が発生した際もその都度高校へ報告した。受験生に関する相談も必要に応じて行っている。

さらに、情報発信の場として高校での進学説明会や進路ガイダンスへの参加も積極的に行い、職業の専門性や将来性など医療現場の背景や今後の展望について最新の情報を提供している。

小項目 VIII-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

高等学校新卒者が漸減している中、国による高等教育修学支援金の充足等により、大学志望者の割合は増加している状況ではあるが、今年度も受験者数を確保し、定員充足に向けて入学者の確保に努めている。

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

国家試験の合格率や就職先の情報など学校案内やホームページに記載しており、高校訪問時に説明を行っている。また、就職情報は校内廊下に内定施設を掲示することで来校者へも周知している。

小項目 VIII-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

予算通りに購入計画は進められているが、予算編成と教育目標、事業計画等との整合性については、再考の余地がある。予算執行については、申請（稟議）を行ない、決裁権限に基づき承認後に執行している。

小項目 VIII-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

「私立学校法第37条」および「学校法人巨樹の会寄付行為第16条」に基づき、選任された2名の外部監事が学校法人の業務、及び財産の状況並びに理事の業務執行状況について監査を行なっている。また、3ヶ月に一度、公認会計士による監査を実施し、指導に従って財務処理を行なっている。

項目VIII 財務

総括

募集活動に努めている結果、この数年は充足率に大きな変化はなく財政状況は安定している。

課題

夜間コースの募集停止により、定員数が減ることから、改めて中長期的に収支予測を検討する必要がある。

改善の方策

例年、経年劣化による空調機の不具合について検討事案として挙げていたが、次年度予算で省エネ補助金を利用しつつ、更新工事を予定している。これにより、電気代の削減が見込まれる。

項目IX 法令等の遵守

総括

法令、設置基準等に基づいた学校運営を行っている。職業実践訓練支援給付金の対象講座や高等教育無償化認定校となっている。

課題

教育施設として必要な法令へは随時対応していく。日々進化する SNS や詐欺被害などへの対処は早めに情報共有を図る。

改善の方策

必要な手続きはその都度対応していく。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし。

小項目 IX-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適合

■コメント

ハラスメント防止規程も設けられている。障害学生支援規定も設け学生便覧に記載している。

小項目 IX-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

個人情報保護については就業規則に規程を設けている。学校情報を SNS で配信する際も個人情報に留意しながら対応できている。

学生に対しては、学生便覧等に個人情報に関する規則を明文化し説明・指導を行っている。新入生は入学後に情報リテラシー教育も実施した。臨床実習の際には個人情報保護の誓約書を記載し臨んでいる。毎年メディアでは個人情報や SNS トラブルを目にすることも多いため引き続き教員・学生へ注意喚起を図っていく。

項目 X 社会貢献・地域貢献**総括**

テーピング講座などの部活動支援や熱中症対策セミナーなどの地域貢献活動などを通し、産学連携、地域連携のための取り組みがなされている。地域からの要望に応じて公民館などにも出向き出前講座を実施している。

課題

地域の方から学生の態度に関して好評を得ているが、一方で一部の学生の行動に対して苦情をいただくこともあった。

改善の方策

学校外の地域での振る舞いも社会貢献である意識を持たせることが必要。相手の立場に立った関わりを指導し身に着けていく。今後は SNS などを活用してボランティア活動状況報告を行っていきたい。

学校関係者評価委員会からの意見

地域貢献した学生を表彰するなど認められる経験を増やしていくとよい。また貢献活動により学院の認知や広報にもつながる。

小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

熱中症セミナーを2回開催した。

また教員の部活動支援の際に、出身学生が母校へテーピング講習会のサポートとして同行訪問したことで、高校の先生方にも成長した姿を見てもらうことが出来好評であった。

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適合

■コメント

今年は1回だけであるが1年生による地域清掃活動を実施した。他にもボランティアを実践する科目も設け、活動後は地域の方々にも感謝の言葉をもらうことが出来た。今後も継続して社会貢献の意識を育んでいきたいと考える。

また授業の一環としてもボランティア活動を実施している。

- ・1年生後期(対人関係演習Ⅱ)：ボランティアの意義について調べて実際に体験を行う。
- ・2年生後期(基礎作業学Ⅱ)：地域の高齢者を対象としてレクリエーションの企画を行って実践する。

オープンキャンパスの際は学生が主体となって参加者へ学校の魅力を伝えている。